

# 高等学校の沿革史・記念誌の所蔵目録について

佐々木享（愛知大学短期大学部）

各種の学校史・記念誌類（以下「学校史誌」と略称する）が提供する情報は、情報の性格からみれば二次的な史料であるけれども、教育史研究の重要な資料であることについては、贅言を要しまい。たとえば各学校の教育の事実を伝える学科課程表（戦後は教育課程表）の変遷は教育史研究の関心事の一つである。これは、旧学制の学校については国立公文書館など手を尽くせば調査できるけれども、戦後には届け出文書の扱いとなったので、公的機関に保存されることはない。したがってその変遷を調べるには学校史誌類の記述が重要な情報源になる。こうした意味で、1990年5月に刊行された**中等教育史研究会『旧制中学校沿革史文献目録』**は、旧制中学校の背景をもつ高校の学校史誌の発行状況を最も広く記録した文献目録として貴重である。ただ残念ながら、所蔵箇所が示されていないし、旧制中学校の背景をもつ高校に限定されている。

本稿では、（新制）高等学校と旧制中等学校（中学校、高等女学校、実業学校）の学校史誌類の各種のコレクションの中から、筆者の視野に入った特色あるコレクションとその目録について述べる。

## 高等学校の学校史誌を蒐集している機関とその所蔵目録

### (1)名古屋大学教育学部図書室

筆者は、1960年代末の頃からおぼろげと高校教育研究の一環として高校の学校史誌類の収集を始めた。この収集を始めて間もなく、財団法人野間教育研究所に高等学校を含む各種の学校史誌が収集されていることを知った。筆者の蔵書との重複を調査してみたところ、いわゆる大冊の学校史誌は野間教育研究所の方が圧倒的に多いけれども、重複しないものも多いことがわかったので、筆者の収集はそのまま続けた。けっして網羅的計画的に集めたわけではなかったのに、20年以上にもなると、筆者が収集した高校の学校史誌はかなりの数になった。幸いに、筆者が名古屋大学を退職する際に、教育学部の好意で、これら全部は（重複分をのぞいて）同学部の図書室に一括して受け入れられた。

同図書室は、従前からの所蔵分と筆者の寄贈分とを合わせて、**名古屋大学教育学部図書室『全国高等学校史誌 所蔵目録 1998年8月現在』**を作成した。1748点が登録されている。この目録だけを取り出した冊子は作成されていない。しかしインターネットの名古屋大学教育学部図書室のホームページでアクセスできる。

(<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/library/>)

## (2)財団法人野間教育研究所の所蔵目録

財団法人野間教育研究所所蔵の学校史誌類は、財団法人野間教育研究所『野間教育研究所所蔵 学校沿革史誌目録 [1986年度版]』（1987年3月）、同『野間教育研究所所蔵 学校沿革史誌目録 [1987年度増加図書]』（1988年3月）の如くに年々追録されている。この目録は、旧学制、新学制による「大学」から「幼稚園」にいたる各種の教育機関の学校史誌関係の書物の他、学寮史などを16種に分類して記載している。ここでの関心事の書物は、「[9] 高等学校・旧制中学・旧制高等女学校」として分類されている。旧学制下に刊行された中等程度の実業学校の学校史もこの[9]に分類されている。

筆者の手にある最新のものは『野間教育研究所所蔵 学校沿革史誌目録[1991年度増加図書]』（1992年3月）で、これによると、[9]に分類された書物は累計626冊に達している。なおこの年以降の増加目録は作成しておらず、目下、これまでのすべてを含む累積目録を作成準備中とのことである。『大学時報』1998年3月号記載の同研究所の紹介記事によると、1998年1月現在の高等学校史誌は871冊にのぼっている。

## (3)日本私学教育研究所

財団法人日本私学教育研究所の所蔵本約1500点は、『私立中学・高等学校沿革史目録』（1994年3月）としてまとめられている。表題の如く、私立の中学校、高等学校のみの学校史誌の目録である。

## (4)お茶の水女子大学

お茶の水女子大学附属ジェンダー研究センター（旧女性文化研究センター）が収集した旧制高等女学校及び旧制高等女学校を前身とする高等学校の学校史誌約430点は、同大学附属図書館に所蔵されている。ただし、これら学校史誌は目録化されていない由である。

## 各都道府県教育史ないし県史編集室等に収集されている学校史誌

### (1)都道府県史、都道府県教育史編纂事務局

各都道府県の都道府県史や教育史編纂事業の基礎作業の一環として、その編纂事務局が管下の高等学校の学校史誌を収集している例はかなり多いと推測される。調査したわけではないので確言はできないけれども、こうした場合に収集された学校史誌は、各都道府県の府県立の図書館には移管されておらず、また学校史誌のみの所蔵目録は作成されていない場合が多いように思われる。たとえば『東京都教育史』の編纂事務局がある東京都立教育研究所には、かなりの数の都立学校や区立・町村立学校の学校史誌が収集されている。その中の（旧制中等学校を含む）都立高校の学校史誌は、ざっと見たところでは、503点にのぼっている。その中には、都立神津高校、都立新島高校など島嶼の高等学校の沿革史のような珍しいものも含まれている。一つの都府県下の高校の学校史誌としてはかなり大き

なコレクションといえよう。しかし、それらは台帳に登録されているだけで、都立高校の学校史誌だけを取り出した目録は作成されていない。

#### (2)〇〇県教育センター

筆者の限られた知見によれば、府県立図書館に収録されている当該道府県の管下の学校史誌は意外に少ない。むしろ前述の東京都立教育研究所の例のように、かつては〇〇県教育研究所と称していた〇〇県教育センターの図書室に収録されているものの方が多い。愛知県教育センターの場合もそうである。実数がそれ程多くないためか学校史誌だけの目録を作成している場合はないように思われるが、どのくらい所蔵されているかを全国的に調査してみる価値はありそうである。

#### (3)個々の高校

学校史編纂を契機に、各地の高校が高等学校の学校史誌を収集している場合も少なくないと推測される。『中等教育史研究通信』第65号（1998年11月）にその一部が紹介された**兵庫県立神戸高校の校史記念室の所蔵目録**は、おそらくその典型の一つである。筆者が頂戴した目録は、都道府県別に各学校史記念誌の著者、資料名、発行年月日をB4版の用紙に6頁にわたって収録したもののコピーである。とくに頒布すべく準備されたものではないように推測される。ここには1998年12月3日現在、全国にわたる高校のそれが593冊が収録されている。かなり大規模なコレクションといえる。同高校所蔵の高等学校の学校史誌をその目録により発行年代で区分すると、1950年代は1冊、1960年代は14冊、1970年代は62冊に過ぎない。すなわち、大部分は1980年代と1990年代に発行されたものである。80年代、90年代に発行されたものが多いことは、このコレクションの一つの重要な特色となっていると思われる。

#### (4)個人

『中等教育史研究通信』第65号に永田實氏が紹介している大阪府下在住のY.K.とは山本勝彦氏のことで、同氏は教育関係の方ではなく、趣味?として、高校に限らず大学を含む各種の学校沿革史の類を収集しておられるとのことである。頒布し得る目録はない由である。

### 高等学校の学校史誌を追録する課題

学校史誌の刊行は、年々増加している。たとえば前記神戸高校の所蔵目録によれば、1990年代に発行された高等学校の学校史誌は、98年12月までだけで300冊以上にのぼる。学校史誌は、後から編集されたものほど魅力的なものが多いことは争えない。ところで、管見の限り、逐年増加するこれらの書物を収集し、その追録を作成しているのは、前述の財団法人野間教育研究所だけであるように思われる。他の機関も考えて欲しい課題である。

### (新制) 中学校の学校史誌について

初めから新制中学校の学校史記念誌には触れるつもりがなかったのに、『中等教育史研究通信』第65号に本稿のタイトルを「日本の中等学校の学校史記念誌所蔵目録について」と予告したのは、不用意であった。

等しく中等学校の一環といわれているのに、新制中学校に関する歴史的研究は、今日なお驚くほど少ない。その原因なのか結果なのか、新制中学校の学校史誌類も、筆者が知る限り、ひどく少ないように思われる。たとえば前記の都立教育研究所には都下の公立中学校の学校史誌226点が所蔵されているが、それは都立高校のその半数以下に過ぎない。公立小学校のそれは膨大な量にのぼっているので、区立中学校を収集の対象外としたわけではないと思われる。前記の野間教育研究所にも、新制中学校の学校史誌は1998年1月現在で62冊登録されているに過ぎない。

もし新制中学校の学校史記念誌を収集している事例があるのなら、この際、ぜひ紹介して頂きたいものである。

#### 【追記】

本稿の脱稿後、前述の野間教育研究所では、従来のような追加分だけでなく、1998年度までに収集した学校史誌のすべてを収録した目録を作成し、本年夏には発行する運びになった由を承った。その目録は有料頒布の予定だという。